

札幌市学校給食運営委員会
第2回学校給食における食器のあり方検討部会
議事録（要旨）

1 開催日時

平成31年1月22日（火）14：30～15：45

2 開催場所

札幌市教育委員会 4階教育委員会会議室
（札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル）

3 出席者

(1) 委員 5名

辻部会長（札幌市立小学校長会）、森委員（札幌市立中学校長会）、
千葉委員（札幌市学校給食栄養士会）、百々瀬委員（学識経験者）、
今野委員（調理員：臨時委員）

※ 欠席者：松山委員（札幌市PTA協議会）

(2) 事務局 5名

木村保健給食課長、畠山給食係長、先野栄養指導担当係長、
竹腰栄養指導担当係長、安達給食係員

4 開会

事務局から、第1回部会における資料に一部誤りがあったことを報告し、謝罪した。

平成29年度の食器の破損率の算出の際に集計誤りがあったもので、前回の資料では破損率は10.8～26.3%、平均破損率は16.6%となっていたが、正しくは破損率11.3～29.2%、平均破損率は18.7%であることを報告し、修正版の資料を配布した。

5 議事

部会長から、第1回に引き続き会議は非公開とすること及び議事録は発言者が特定されないようにしたうえで公開することについて提案があり、承認された。

(1) 現行の強化磁器食器の評価について

ア 現行の強化磁器食器と樹脂食器の比較

事務局から、食育、安全性、作業性、耐久性、経済性の5つについて、強化磁器食器と、第1回部会において委員から実物を見たいと要望のあったPEN樹脂食器と耐熱ABS樹脂食器の2種類の樹脂食器の比較について説明した。

【事務局説明】

《食育》

○ 使用感

強化磁器食器は「口当たりや見た目が良く、高級感がある」「熱が伝わりやすいため、熱い食事を熱く感じることができる」「他材質より重いため、料理の重みを感じることができる」という長所がある反面、「熱が伝わりやすいため、熱い食事は食器を手で持って食べにくい」「他材質より重いため、小学校低学年には扱いづらい」という短所がある。

これに対し、PEN、ABSともに「熱が伝わりにくいため、熱い食事も食器を手を持って食べやすい」「軽いため、小学校低学年にも扱いやすい」という長所はあるが、「強化磁器と比べて安っぽい印象を与える」という短所がある。

○ 食指導

強化磁器食器は「家庭で使う食器に近く、望ましい食習慣を学習できる」「割れやすいため、物を大切にすることを指導できる」「学校給食の残食率は、強化磁器食器を全校に導入して以降、減少傾向が見られる」という長所がある。

○ 児童生徒等の評価

平成11年度に行ったアンケートでは、児童生徒の68%が強化磁器食器は「良い」と回答し、学級担任の77%が「食器の変更は児童生徒に好評である」と回答している。

また、平成16年度に行ったアンケートにおいても、98%の学校が「食器の整備が給食の充実に繋がった」と回答している。

※ 「食指導」「児童生徒等の評価」については、樹脂食器には比較資料がないため、強化磁器食器についてのみ掲載した。

《安全性》

○ 化学物質

いずれの材質も、「内分泌かく乱物質を有すると疑われる化学物質（環境庁（現・環境省）が平成12年にリストアップした65物質）とは関わりはない」材質である。

強化磁器食器については、製造時に高温処理されるため、化学物質の溶出のおそれはない。

PENについては、添加物を使用していないことから、添加物の溶出はない。

○ 破損

強化磁器食器は「落としたりぶついたりすると割れやすい」材質であるのに対し、PEN、ABSは「ほとんど割れない」材質である。

○ 消毒

いずれの材質も「消毒保管庫で85～90℃の消毒」が可能であり、煮沸消毒又は熱湯消毒も可能であるほか、近年流行しているノロウイルスに有効な「塩素系漂白剤での消毒」も可能である。

《作業性》

○ 重量

児童生徒 40 人と学級担任 1 人の 41 人分の食器を想定した 1 学級あたりの最大重量は、強化磁器食器が 5.7～10.3kg であるのに対し、PEN が 2.3～5.5kg、ABS が 2.3～4.6kg であり、強化磁器食器と比べ軽量である。

※ 樹脂食器は現行食器に近い仕様の既製品で比較した。

○ 比重

重量と同様に、強化磁器食器が最も大きく、ABS が最も小さく、最も小さい ABS の比重も 1.07 と水より大きいため、食器の洗浄時に水に浮くことはないと思われる。

○ 熱伝導率

強化磁器食器は樹脂食器に比べ熱伝導率が高く、熱が伝わりやすい。

○ ばらつき

PEN、ABS は金型に樹脂を流し込んで固めるため、個々の食器の重量やサイズにばらつきはほとんどないが、強化磁器食器はコテを当てて成形するため、多少のばらつきが生じる。ばらつきが大きいと、重ねる際などに支障が出ることもあるため、現行の強化磁器食器は、重量は誤差±5%以内であることを仕様としている。

○ かさ張り

強化磁器食器は強度を保つために厚みが必要となるため、重ねたときに樹脂食器より高くなり、食器籠などに収納するスペースが多く必要となる。

○ 作業負担

強化磁器食器は重く割れやすいため、樹脂食器と比べると、洗浄や運搬等の作業負担は大きい。

○ 作業音

強化磁器食器は樹脂食器に比べ、作業音が大きい。

《耐久性》

○ 着色・変色

強化磁器食器は食材や紫外線等による着色・変色はないが、ステンレス製の食器籠を使用した場合、メタルマーク（金属による黒ずみ汚れ）が付着しやすい性質がある。

PEN、ABS とともにメタルマークは付着しにくいですが、PEN は紫外線により黄変することがあり、ABS はバナナや巨峰等の渋、カレーの残渣が付着した部分に熱が加わると薄く変色することがあるほか、長年熱を加えられることにより黄変することもある。

○ 硬度

強化磁器食器は鉛筆硬度で 7H と非常に硬く、傷が付きにくい。

PEN は 2H だが、内側表面にシボ加工が施してあるため、傷は付きにくくなっている。

ABS は通常品は 3H だが、5H と硬度の高い製品もある。

- 破損率
強化磁器食器については、小学校の破損率は14.6～29.2%、中学校の破損率は7.7～20.1%であり、いずれの食器も小学校の方が中学校より破損率が高い。

PEN、ABSの破損率は、いずれも1%程度である。

- 耐用年数
強化磁器食器については、破損しなければ半永久的に使用できるが、現在の破損率から計算すると、破損率の最も高い小学校用の茶碗の耐用年数は3年ほどとなる。

8年程度であるPEN、10年程度であるABSに比べ、強化磁器食器の方が耐用年数が短くなる種類が多い。

《経済性》

- 単価
強化磁器食器については平成30年度の入札実績単価を、PEN、ABSについては現行食器の仕様に近い既製品の定価の6割の額を想定単価として比較すると、PENは現行の約1.6～2.4倍、ABSは約2.1～3.1倍の価格となる。

- 導入経費
全校分（小学校96,500食、中学校47,500食）を全て一度に導入した場合の導入経費を比較すると、強化磁器食器は約2億7,600万円となるのに対し、PENは約5億3,200万円、ABSは約6億9,100万円となる。

- 維持経費
維持経費として1年間にかかる購入経費を比較した。
強化磁器食器は、破損分の補充費用として、全食器の維持経費の合計額は約4,900万円である。

PENについては、耐用年数が8年程度であることから、1年に1/8ずつ8年かけて全食器を更新した場合を想定し、算出すると、約6,700万円となる。

ABSについては、耐用年数が10年程度であることから、1年に1/10ずつ10年かけて全食器を更新した場合を想定し、算出すると、約7,000万円となる。

全食器の合計額は強化磁器食器が最も安価となるが、個々の食器ごとに比較すると、破損率が高く、補充個数の多い小学校用の茶碗、カップはPEN、ABSの方が強化磁器食器よりも安価となる。

【委員からの質問、意見等】

委員	耐用年数で、PEN食器とABS食器の8年と10年というのは、破損によるものか。それとも黄ばみが出てくるということか。
事務局	破損ではなく、だんだん劣化していくということのようである。

委員	それはあくまでも業者が言っているということか。
事務局	<p>今回は業者から聞き取りを行っている。今後、実際に樹脂食器を使用している自治体からもヒアリングを行い、その結果を皆様にお知らせしたいと考えている。</p> <p>また、扱い方によっても異なるが、PEN食器のメーカーからは使用回数は1,000回が目安と聞いており、ABS食器については、1,000回とは言われていないが黄色くなっていくという経年劣化はあると思われる。</p>
委員	強化磁器についてだが、破損率は学校から報告が上がってきている数を基に算出しているのか。
事務局	実際に割れた数ではなく、学校から補充の申請があった数になっている。実際に割れた数ではないが、傾向としてはこのような傾向にあると言えると思う。
委員	「消毒」について、PENは「煮沸消毒できない」とあるが、これは問題があるのか。
委員	今の食器も煮沸消毒はしていない。すべて消毒保管庫の中での消毒となるので、熱湯消毒や煮沸消毒は行ったことがない。
委員	「耐久性」について、ABSは「薄く着色することがある」とあるが、着色した色を落とすことはできないのか。それとも着色しても問題ないものなのか。子どもたちはやはり「色が付いたら嫌だな」と思ったりするのではないのか。
事務局	<p>業者からの回答をそのまま読み上げたい。</p> <p>こちらからの「着色に注意が必要な食材はあるか」という質問に対し、「単独校方式での事例はほとんどありませんが、バナナ、巨峰等の渋、カレーへの注意が必要です。ほとんどは洗浄により除去されますが、乾燥により固着したカレーや多量に残留した渋などは、残留に気が付きにくく、温度が加わると、まれに薄く着色する場合があります。対策としては、食材を使用する日のみ酵素入り洗剤を使用すること、残留自体を防ぐために浸漬を十分にすること等が挙げられます」という回答であるため、必ずしも色が付いてしまうということではなく、洗浄の仕方を工夫することで、およそ防げるものであるとのことである。</p>
委員	やはり気になるのは「単価」で、ABSは色合いが今使っている強化磁器に近い色だが、一番単価が高い。しかし、提示された資料に載っていることもあるので、この3倍くらい高い材質の食器を選んで答申をまとめることになっても構わないのか。

事務局	<p>PENとABSで色が違うことについて、PENも白くすることはできるそうだが、紫外線によって黄変するため、それが目立たないように色を付けているとのことである。</p> <p>また、維持経費については、あくまでも想定である。事務局の方から制限するという事はないが、今回示した内容は業者から聞き取った内容であり、用意した食器は新品である。実際に使用している自治体の意見や状況も調査したいと考えており、それを踏まえてご議論いただきたいと考えている。</p> <p>今の食器から別のものに変更した方がよいとなった場合は、今ある予算の中でどのように実現させていくかを教育委員会の中でさらに議論を深めていくことになる。</p> <p>今回は、実際に学校で試行するところまでは時間的に難しいこともあり、実際に使用していない中ではあるが、今ある情報でご議論いただき、何が最もよいのかを答申としてまとめていただくことになる。実際に使用してみなければわからない部分もあるため、答申を踏まえて、実際に試行し、導入するという流れで考えている。答申の仕方としては、変更する材質を特定するやり方もあれば、いくつか候補を残すというやり方もあると思うが、いずれにせよ情報がまだ足りないと思っているので、さらに知りたい項目があれば、ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>今、事務局からも説明があったとおり、経済性だけではなく、5つの項目すべてを考慮してどれが良いかという判断になると思う。</p>
委員	<p>「安全性」について、子どもたちや調理員が割って怪我をしたというのがどの程度あるか知りたい。</p>
事務局	<p>次回以降にお示ししたいと思う。</p>
委員	<p>強化磁器食器は平成11年度くらいから導入しているが、導入時と比べて価格はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>一度に購入する数量は年度によって異なるため、きちんとした比較はできないが、導入当初はかなり高値だったものが大きく値下がりし、そこから徐々に値上がりしてきている。</p>
委員	<p>その価格の推移についても資料を出してもらうことは可能か。</p>
事務局	<p>可能である。こちら次回以降にお示しする。</p>
委員	<p>「児童生徒等の評価」について、平成11年度のアンケートというのは、ステンレス食器から強化磁器食器に変わっ</p>

	たタイミングで実施したものという認識でよいか。
事務局	その通りである。第1回部会の中で示したものと同一アンケートである。
委員	「児童生徒等の評価」について、「熱いものでも食器を手で持てる」と68%が答えているということは、7割の児童生徒が「持てる」のに対し、3割が「持てない」ということか。
事務局	第1回部会の資料でも示しているが、まず「ステンレスから磁器食器に変わったが、どう思うか」という質問に対し、68%の児童生徒が「よい」と回答し、その理由として「熱いものでも食器を手で持てる」が47%、「給食をおいしく感じられる」が40%という回答となっている。
委員	これだけを見ると、熱くて手で持ちづらいという議論はそこまで重要視することはないのではないかと思う。「使用感」の項目にデメリットとして挙げられた「熱いものを食べにくい」ということを重要視することもないのではと感じた。
委員	当時のアンケートは「ステンレスと比べて」という点について子どもの感覚として問うたものだと捉えている。

イ 食器に関する食事マナー

辻部会長から、「食育」に関して、食事のマナーについて百々瀬委員からお話を伺いたいとの発言があり、百々瀬委員から説明があった。

【百々瀬委員の説明】

- マナーの基本は「片手で持てる器はすべて持つ」ことであり、ご飯ものや汁物が入った食器、小皿は手に持つ食器となる。
- 「大きい器は持たないか」という点で、丼については、麺の場合は手に持たないが、ご飯ものは器が大きくても手に持つことがルールである。
- 麺であっても、麺を食べるときは置いて食べるが、その汁を飲む場合には汁物という扱いになるため、手に持つという扱いになるので、単純に大きさではない。
- ただし、今の学校給食において、麺の汁は飲まないという指導かと思うので、麺の場合は手に持たずに食べることになるが、手に持つこともルール違反というわけではない。
- 皿については、皿の上で箸などで小さくしてから食べることになるので、手に持たずに置いたまま食べて構わない。
- 食器の種類によっては、大きくても手に持たなければならないものもあれば、逆に、手に持たないから大きくても大丈夫というものもある。

【委員からの質問、意見等】

委員	汁物でも、熱いと持てないと思う。
----	------------------

委員	本当は持たなければいけない。
委員	小学校低学年の児童は持たないと思う。
委員	中学生でも持たない生徒もいる。
委員	器に盛ったとき、かなり熱いものが出るのか。
委員	持てないほどではない。
委員	<p>給食で使うバットにも、持ったら火傷するくらい熱いものが入っているわけではないので、本来は器を手を持つということと、熱いものはある程度冷まして食べるということが当たり前であるが、今の子どもたちの中にはそういった危機管理ができていない子もいて、熱いまま口に入れてから慌てたりというところもある。</p> <p>そういった意味では、器が熱いほうが「熱いものだから冷ましてから飲もう」という意識が働くので、危機管理という意味では熱が伝わりにくい材質のほうが良いというわけではないので、難しいところである。また、熱いものは熱くして食べてほしいという意図もあるかと思うので、あえて冷まして入れるということにはならないので、その辺りも難しい。</p> <p>また、熱くて手で持てないというだけでなく、手で持たなくても食べられる姿勢で食べているから手で持たないということもあると思うので、正しい方法で食べれば多少熱くても手で持てるということはあると思う。今の食器には糸底が付いていて持ちやすくはなっているので、あえて熱さのあるものや熱が伝わるものを上手に手に持って食べるということも大事だと思う。</p> <p>ただ、家庭の食器は、汁物が木製の汁椀に入っていたり、麺用の丼がもっと高さがあるって少し冷めやすいようになっていたり、学校給食の食器とは異なるため、どこを大事にするかの判断が難しい。</p> <p>今、手元にあるPEN食器のような色は、どちらかという食欲がわきにくい色と言われており、今で言うところのインスタ映えはしないと思う。</p>

(2) 学校給食現場の視察方法について

事務局から、第3回部会で実施する学校給食現場の視察方法について事務局案を説明した。

【事務局案】

〈学校給食用食器に係る学校給食現場視察実施要領（案）〉

- 調理員の作業状況、児童の給食の様子等を視察することにより、現行の強化磁器食器の使用状況等の実態について必要な情報を得ることを目的と

する。

- 実施日時は、平成 31 年 2 月 20 日（水曜日）10 時 30 分から 16 時 30 分までとする。
- 視察校は、ドライシステム方式の給食施設を有し、札幌市の調理員が給食業務を実施している小学校とする。
- 調理員の作業状況については、視察校が親学校の場合は子学校の食器等をコンテナに、単独校の場合は自校の食器等を教室用配膳車に積み込むところから視察を開始し、使用した食器の洗浄、保管、消毒作業までとする。
- 児童の給食の様子は、小学校低学年、特に 1 年生の学級を中心に、給食当番の配膳作業、児童の食事の様子、食器の扱い方等について確認する。
- 栄養教諭・栄養士、調理員へのヒアリングも実施する。

【委員からの質問、意見等】

委員	単独校よりは親学校のほうが、子学校の作業もあって作業負担が大きいと思うので、できれば親学校のほうがよいと思う。
委員	小学校低学年のみではなく、例えば、小・中が併設されている学校を対象にするのはどうか。 井を使わない献立の場合も、使っていない井を確認させてもらうこともできる。 実際に持っているところを見るとなると、やはり茶碗とカップがいいと思う。
委員	確かに小・中が併設されている学校もあると思うが、そこはコンテナではなく教室用配膳車で作業のみになるのではないか。
委員	そのとおりである。ただ、子学校に入れる運搬は、学校によっては 10 時半で間に合うかどうかという部分はある。
事務局	子学校に持っていくのと、子学校から返って来るのと両方の作業があるので、間に合わなければどちらか一方だけを見ることでもよいと考えている。
委員	子学校の場合は、コンテナに積む作業はあるが、配膳車に積むかコンテナに積むかの違いである。
事務局	実際に児童が使っているところを見たい食器はあるか。
委員	茶碗、カップ、井の使用を見るのがよいと思う。できれば、汁物があるほうがよい。

【部会長】

- 以上のご意見を踏まえて、視察校の選定を行っていくが、受け入れ側の学校との調整が必要となるため、視察校の選定については事務局に一任することといたしたい。
- また、今回は視察も含めて非常に長時間にわたることとなるが、ご参加をいただきたい。

【事務局】

- 次回は昼を挟む形になるため、給食を食べることになる。
- 給食 1 食あたり 270 円かかるため、開催通知と合わせてお知らせするが、現金でお支払いいただくこととなるので、ご了承いただきたい。

(3) アンケートの実施方法について

事務局から、学校給食用食器に関するアンケートの実施方法について事務局案を説明した。

【事務局案】

《学校給食用食器に関するアンケート実施要領（案）》

- 食器のあり方について検討する基礎資料とするため、学校給食に関わる児童・生徒及びその保護者並びに学校職員を対象としたアンケートを実施し、現行の強化磁器食器の満足度や課題等を把握することを目的とし、平成 31 年 2～3 月に実施する。
- 調査対象及び調査内容は以下のとおりとし、事務局から調査対象校の学校長へ依頼し、学校を通じてアンケートの配布・回収を行う。
 - ア 児童・生徒
 - 小・中学校から各区 1 校のそれぞれ 10 校（親学校 4 校・子学校 4 校・単独校 2 校）ずつを抽出し、小学校は第 5 学年、中学校は第 2 学年からそれぞれ抽出した 1 学級の児童・生徒を対象とし、食器の使用感や満足度等について調査する。
 - イ 保護者
 - アの児童・生徒の保護者を対象とし、食器の満足度や食器に期待すること等について調査する。
 - ウ 学級担任
 - アで抽出した小学校の第 1 学年・第 3 学年・第 5 学年、中学校の第 2 学年の学級担任を対象とし、学級における給食の様子、食器の扱い方等について調査する。
 - エ 栄養教諭・栄養士
 - 小・中・特別支援学校のうち、親学校及び単独校 184 校に在籍する栄養教諭・栄養士を対象とし、学級と給食室における食器の状況等について調査する。
 - オ 調理員
 - 小・中・特別支援学校のうち、札幌市の調理員が給食調理を行っている調理校 24 校に在籍する調理員を対象とし、食器の運搬、洗浄作業等について調査する。

【委員からの質問、意見等】

委員	小学校は 5 年生、中学校は 2 年生を対象とした根拠は何か。
----	---------------------------------

事務局	<p>平成9年2月に、札幌市における学校給食のあり方を検討するためのアンケートを実施しており、その際に小学校5年生と中学校2年生を対象としていたため、それに倣った。</p> <p>ちなみに、当時は小学校5年生に関しては2学級、中学校2年生に関しては1学級の児童生徒を対象とし、当時は9区あったため、小・中学校を各区1校、計9校ずつ選出していた。今回は、調査の対象が当時よりも多いことから、小学校も中学校と同じ1学級としたいと考えている。</p>
委員	<p>小学校1・2年生については視察に行つて実際に見ることができるとは、小学校中学年と高学年で使用感を客観的に捉えられるのはやはり高学年ではないか。</p>
委員	<p>私の実感から言うと、小学校低学年は聞かれていることに対して答えるということはなかなか難しい。使用感をどう表現で言うかも含めて、ある程度客観的に物事を判断できるのは高学年であるということで5年生にしているのではないか。</p>
委員	<p>小学校6年生から中学校1年生になるときに食器の大きさが変わるので、中学校は2年生よりは1年生のほうがいいのではないか。中学1年生から2年生になったときに使用感はさほど変わらないだろうし、2年生にもなると大きい食器のサイズに慣れてしまっているのではないか。</p>
委員	<p>アンケートの学年としては悪くないと思う。人数的な規模も調査の数字としては十分だと思うし、各区から集められれば良いと思う。</p> <p>また、食器の「使用感」について、中学校1年生に対して、4・5月に実施のアンケートであれば、使用感の違いということもあるかもしれないが、今回3月に実施することを考えると、丸1年近く経っており、小学校の頃の食器と比較することは難しいと思うので、中学校1年生を対象とするメリットはそこまでないと思う。</p> <p>過去に実施したアンケートと同じところを対象としたほうが、当時のことを参考にこの対象者を選んだという部分もあるため、今回の学年については事務局の提案は理に適っていると思う。</p>
委員	<p>前回の会議では挙がっていなかったが、学校全体のことを把握されている管理職の先生には実施しなくてよいか。</p>
委員	<p>失礼ながら、校長先生がアンケートに回答するときも栄養教諭・栄養士から意見をもらって記入するのではないかと考えた。</p>

委員	管理職は全部を毎日見て回れるわけではないし、栄養教諭・栄養士のほうが毎日見て回っており、栄養教諭・栄養士が一番把握しているのではないかと思う。
委員	保護者に聞く質問の中身について、保護者以外の対象者は食器を見て触っているが、保護者は食器について分からない部分が多く、子どもに聞かないと情報が集まらないのであれば、現在使用している食器についての正確な客観的なデータは集まらないのではないか。
事務局	具体的な設問に関してはまだ検討していないが、平成9年2月のアンケートでは保護者に対してもアンケートを実施しており、今回もそれに倣って保護者もアンケートの対象としている。
委員	<p>児童生徒は学級活動等を使って実施すると思うが、保護者については子どもたちが持って帰って回答してもらうことになる。回収のことを考えると、保護者へのアンケートのやり方と回収方法が難しいと感じた。</p> <p>確かに保護者からの意見は知りたいが、実際に強化磁器食器を使っていることが分からない保護者には答えにくいものになるのではないかと思う。</p>
事務局	それも踏まえて設問をうまく考えられればと思っているので、ご相談させていただきたい。
委員	食器そのもののイメージがない保護者に対しても、例えば「食育上でこういうものを使ってほしい」という考えは保護者にもあると思う。設問の項目によっては保護者に聞きたいものもあるのではないかと思うので、今後、事務局に提案していただきたい。
委員	<p>保護者へ調査するという事は、保護者への食育についての教育にもなると思っている。「学校がここまで食器にこだわっている」「給食をおいしくするためにエネルギーを使っている」ということを分かっただくことも大事だと思う。保護者自身においても、出来合いのものをそのまま食卓に出すということではなく、「器に移してみようかな」という発想の土台にもなるのではないか。</p> <p>また、アンケート内で給食試食会に触れることで、給食試食会の宣伝にもなるし、食器のカラー写真を載せれば保護者としても回答しやすいと思う。</p>
事務局	保護者の給食試食会というのは、どの学校でも実施されているのか。
委員	夏休み期間中に実施する学校もあれば、家庭教育学級でやっている学校もある。

	また、どの学年の保護者でも参加できる学校もあれば、1年生だけという学校もある。
委員	中学校でも実施しているか。
委員	実施してはいるが、参加人数は少ない。
委員	怪我の状況等を項目に入れていただけるとありがたい。公務災害にならない程度の小さな怪我もあると思う。また、割れ方について、粉々になるとか鋭利になるとかというような破損状況について、栄養教諭・栄養士と調理員に同じ質問を入れていただきたい。
委員	栄養教諭・栄養士に対しては、食育の効果についてもこの機会に調べていただきたい。
委員	「せっかく行事食を出したいのに、この器ではちょっと」ということもあるかもしれない。
委員	調査について、次回の部会では調査項目の案が事務局から具体的に示されるということによろしいか。また、第3回で内容については完成版を仕上げ、3月の学校があるうちにアンケートを実施するという予定によろしいか。
事務局	その予定である。

【部会長】

- 学校給食用食器に関するアンケート実施要領については、事務局案のとおりとすることとし、アンケートの設問や選択肢等、アンケート内容の説明は次回の会議で議論してまいりたい。

(4) その他

【委員からの質問、意見等】

特になし

【第3回部会について】

- 事務局から、第3回は平成31年2月20日（水曜日）の10時30分から視察校で開催予定と連絡した。

6 閉会